



Title	第12章 カナダ・アルバータ州における高校中退問題への対応：カルガリー市教育委員会の取り組み
Author(s)	岡部，敦
Description	2014～2017 年度日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)（一般）研究成果報告書（課題番号 26285169） 第II部 代替・補償的学校の展開と取り組み：海外を中心に
Citation	グローバル化時代における包摂的な教育制度・行政システムの構築に関する国際比較研究，157-168
Issue Date	2019-12-27
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/92565
Type	research report
File Information	0012_26285169.pdf



第12章 カナダ・アルバータ州における高校中退問題への対応 ーカルガリー市教育委員会の取り組みー

岡部 敦

I アルバータ州における高校中退問題の現状

本調査は、主に高校中退および中退リスクを抱える若者に対するカナダ・アルバータ州における教育政策について、制度的な側面と実際の支援の現場について明らかにすることを目的とした。

アルバータ州教育省のウェブサイト上のデータには、2017年度の高校修了率について、入学後3年で76.5%、5年で82.1%と示されている。この数字には、卒業証書(Diploma)ではなく、卒業証書よりも履修要件が緩和された修了証書(Certificate of Achievement)、または北米共通の卒業試験(GED)の合格者、そして、高校は卒業していないものの、大学やその他の中等後教育機関での在籍を認められたものなどが、卒業と同等の資格があるものとして含まれている。したがって、約4分の1の若者が卒業証書を受け取らずに高校を去っていることになる。また、先住民にルーツを持つ生徒(First Nations, Metis, Inuit [FMNI])や、第一言語が英語ではない移民の子弟、学習障害(LD)や情緒障害(EBD)を持つ生徒の修了率は、その他の生徒と比較して極めて低い。下の表1から、これら4つのグループの中で、FMNIとEBDの生徒の修了率が著しく低いことがわかる。これらの生徒は、人種や障害など、必ずしも自分の意思によるものではなく、自分ではどうにもならない要因によって、高校中退に至った可能性があると考えられる。

表1：2011-2016年度アルバータ州高校修了率

3年および5年修了率	2011/2012		2012/2013		2013/2014		2014/2015		2015/2016	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
5年修了率(総数)	45,815	80.6	45,151	81.5	45,243	82.0	45,111	82.1	44,418	83.2
3年修了率(総数)	45,143	74.8	45,052	75.3	44,328	76.5	43,810	76.5	45,077	77.9
FMNI(3年修了率)	3,154	45.8	3,265	45.6	3,231	47.7	3,419	50.2	3,506	53.6
ESL(3年修了率)	1,714	62.0	1,755	65.9	1,538	65.4	2,418	67.5	2,794	73.7
Learning Disability(3年修了率)	2,245	66.7	2,387	67.8	2,371	69.5	2,257	70.5	2,437	72.7
情緒障害(EBD)(3年修了率)	519	38.5	558	45.3	645	49.5	705	49.8	829	52.3

N=cohort size, FMNI=self-identified First Nations, Métis and Inuit students, ESL=Funded English as a Second Language students

<https://education.alberta.ca/high-school-completion-strategic-framework/progress/> on November 18, 2017 and

Accountability Pillar Results APORI Custom Report, System Assurance Branch, Alberta Education, November 15, 2017.

高校修了の条件の多様性、卒業要件の違い、学校制度の違いなどから、カナダ国内での他州との比較は難しい。しかし、2016年にカナダ統計局が発表したOECD高校修了率調査報告書によれば、高校入学から修業年限の3年間で卒業証書を取得して卒業した生徒の割合は、カナダ全土で73%、OECD全体で72%に対して、アルバータ州は62%と示されている。他州に比較して、修了率が低いということがわかる、こうした状況の中、高校中退問題は、アルバータ州教育省発行の政策文書において何度か取り上げられてきた。以下では、それらの主なものを見ていきたい。

Ⅱ 高校中退問題に対する州教育省の対応：高校再構築(High School Redesign)政策

アルバータ学習省(Alberta Learning)は、2001年に「高校修了の壁を取り除く：最終報告書(*Removing Barriers to High School Completion: Final Report*)」を発表し、高校中退問題の要因を様々な社会的視点から分析し、対策について検討している。同文書では、高校中退を「一つの過程であり、結果ではない。典型的には長期にわたる漸進的な離脱(disengagement)を意味する(p.4)」と述べている。さらに、中退に関わる要因を、生徒に関連するもの、学校に関連するもの、学校と地域と生徒に関連するものの3つに分類し、これらの要因が必ずしも単独ではなく、複合的に問題を生じていることと記述している(p4)。同文書では、早期離学者の問題への対策として9つの提言を行った。それらは、子育ておよび幼児教育の充実、生徒の声をよく聞く、生徒の疎外感をなくす、先住民の生徒が成功体験を積むことができるようにする、生徒の自己理解を深める、時間割の柔軟性を高める、学校外との協力関係を構築する、優れた実践事例を共有するなどが含まれていた。同文書中には、「生徒を高校に合わせるのではなく、高校を生徒に合わせる(p.30)」と書かれている。この文書の発表以降、州教育省および学習省¹は、高校中退問題を踏まえた改革を進めている。以下の表2は、その経緯をまとめたものである。

表2：アルバータ州における中退対策のための高校教育政策の経緯

2001	Removing Barriers to High School Completion Rate –Final Report
2003	Every Child Learns. Every Child Succeeds. Report and recommendations Alberta’s commission on Learning
2005	High School Completion Rate Task Force Report: Responding to Alberta’s Commission on Learning Recommendation ¹¹
2009	High School Flexibility Enhancement: A Literature Review
2010	Inspiring Education: A Dialogue with Albertans
2012	High School Completion Strategic Framework
2013	High School Flexibility Enhancement Pilot Project A Summary Report

特に注目したいのは、同文書の発表から8年後に、アルバータ教育省によって発表された「高校弾力化パイロット計画(High School Flexibility Enhancement Pilot Project (HSFEPP))」

¹ アルバータ州における教育行政機関は、それまでのアルバータ教育省(Alberta Education)から、2000年にアルバータ学習省(Alberta Learning)へと改称し、2003年に再びアルバータ教育省(Alberta Education)に戻り現在に至っている。

である。発表後、9つの高校がこの計画に参加した。HSFEPPは、高校のカリキュラムおよび時間割を生徒の個々のニーズに応じて柔軟に編成することを意図するものである。その中心的な概念は、カーネギーユニットの廃止という単位制の基本的な枠組みの改訂である。カーネギー・ユニット（CU）とは学習内容を標準化する目的で、1単位を25時間の学習時間を持って構成するという仕組みであり、20世紀初頭からその有用性と妥当性において議論され続けてきた。アルバータ教育省がこのパイロット計画で目指したのは、どれだけ学んだのではなく、何を学んだのかによって単位が授与される仕組みを構築することであった。州教育省は、このカーネギー・ユニットを必ずしも全ての教科科目での学習に適用するのではなく、学習内容によっては、授業を履修する時間が0時間であっても単位修得を可能とした。

この新たな仕組みによって、高校教育のカリキュラム編成および授業の構築方法にはかなりの柔軟性がもたらされることになった。その内容は大きく3つである。一つは、時間割の柔軟化である。高校で開講される大部分の科目は、5単位や3単位などのまとまった時間数で構成され、1週間単位で時間割が編成されている。1単位ごとの履修を可能にするため、ある科目のうち、特定のトピックについてのみ履修し、残りの時間は別の学習に当てることで、学習内容をより細かな単位に分割して履修・習得することが可能となる。これによって、生徒は、すでに学んでいることあるいは知っていることを重複して学ぶことを避け、生徒の個別のニーズに合わせたカリキュラム展開が可能となる。また、これによって学校外での学習プログラム(Off Campus Program)に参加しやすくなる。そして、第二は、単位修得方法の改善である。これまでは、州統一試験などの標準的な学力の尺度が用意されており、テストの点数を基準として成績評価がなされ、単位修得が認定されていた。しかし、カーネギー・ユニットの廃止によって、かならずしも授業に出席していなくともその科目で求められる条件を満たせば単位修得が可能となった。第三は、教科横断型学習の可能性である。時間割が柔軟になり、単位修得の方法が複数あるということで、複数の科目の隣接領域を確認しながら、それぞれの学習領域の視点から課題を見つけ、共同で課題解決に当たるということである。こうした新たな改革について、州教育省のカリキュラム担当者は、次のように述べている。

アルバータ州の高校教育における入学後3年以内の修了率は74.9%、5年以内では80.7%である。長く高校にとどめておくことができればそれだけ修了する可能性が高まるとも言える。3年以内修了率を高めることは、われわれの目標とするところであるが、州レベルにおいては、「成功」の概念をもう少し広く定義付けたいと考えている。それは、卒業証書を取得するだけでなく、高校生活の中でどう成長したかということである。また、単に高校を卒業しなければならないというプレッシャーを与えるだけでなく、学校にいる意味を認識する機会を与えることが重要である。

(2015年3月アルバータ教育省における聞き取り調査より)

高校入学後の在籍年数が高いほど修了率が高くなるというデータから、生徒がいかにして高校で学習することの意味を認識し、高校での学習を継続するかということを重視していると読み取ることができる。具体的にどのように対応するのかは、学校や教育委員会レベルによって

かなりの差がある。特に、都市部においては多様な選択肢を用意し、生徒のニーズに対応することが可能であるが、郊外地区においては、選択肢が必ずしも十分でない場合が多い。しかし、州政府によるこの一連の動きから、若者をなんとかして高校に在学させ、社会で必要なスキルを習得させる方策を取ろうとしていることがわかる。

Ⅲ カルガリー市教育委員会の事例

アルバータ州の最大都市カルガリー市は、州内でも学校教育について先進的な取り組みを行ってきた。特に、高等学校における学校から仕事への移行に関わるプログラムに関して積極的に推進してきた。この背景には、市内に本社を置く石油関連企業やそれらの産業を支えるトレード分野の職能組合が、豊かな経済基盤を構成していることがある。ここ数年間で、移民や国内の他州からの移住者により人口が増加し、現在では140万人ほどに達している。市内には、カルガリー市教育委員会(Calgary Board of Education)とカルガリー・カトリック教育委員会(Calgary Catholic School District)があり、どちらも公的資金で運営されている組織である。ここでは、カルガリー教育委員会(以下、CBE)における取り組みのうち、生徒のニーズに応じてどんな選択ができるのかについて紹介する。

1. 多様な形態の高校の選択

表3は、CBE内で生徒が選択することのできる高校のリストである。一番上の「通学区域内の高校」は、現住所に基づき、あらかじめ教育委員会によって決められた通学区域によって規定されている高校のことである。この高校にうまく適応できないと判断する場合は、それ以外の種類の高校を選択することが可能である。表中で示されている通り、時間割が設定されている高校と自分で学習内容を設定できる高校とに分類できる。また、英語を母国語としない若者や、国外から移住した若者で、母国において十分な教育を受けないまま就学年齢を超えた若者を対象にした学習センターが存在する。オルタナティブ高校とディスカバリング・チョイスは、通常の高校には適応できないと判断した若者を受け入れる役割を担っている。両者の違いは、教員が積極的に関与するか、生徒の自主的な姿勢を尊重するかである。どちらの高校にも、精神的な疾患を抱えていたり、薬物・アルコール中毒などの深刻な課題を抱える生徒の割合が多い。通学区域内の高校においても、カウンセラーやソーシャルワーカーがこれらの課題に対処するが、この二つの高校では、校長や教頭などの管理職も含めほぼすべての教員が、特別支援のスキルを有している。シヌークラーニングセンターは、就学年齢を超えた若者が高校卒業資格を取得するか、生活に必要なスキルを習得するために通学している。また、生徒の中には次々と転校を重ね、自分にあったスタイルの高校を見つけようとしている場合もある。

また、生徒が抱える特定の課題に応じた学校がいくつか用意されている。ジャック・ジェームス高校は、LDやADHDなど比較的軽度の発達障害や情緒障害などの課題を抱える生徒を市内全域から受け入れている。ここに入学する生徒は、一般に中学在学時にカウンセラーや教員から、ジャック・ジェームス高校への入学を勧められて来る場合が多い。基本的には、一般の高校と同じように時間割が設定され、通常の授業展開がなされているが、職業技術系の科目や実際の企業などで学習の機会を得るオフキャンパス教育などが強化されている。在籍者の約

表3 CBE 内で選択可能な高校リスト

	時間割編成の特徴	その他の特徴
通学区域内の高校 Local High School	・あらかじめ設定された時間割にしたがって授業を受ける ・ほぼすべての高校でアカデミック科目と職業技術系科目の両方が提供されている ・学校外での学修機会（就業体験、アプレンティスシップなど）がある	・CBE 内のすべての高校の始業時間と就業時間が揃えられているので、学校内での学習と学校外での学習を組み合わせる時間割を組むことが可能である
ジャック・ジェームス高校 Jack James High School	・あらかじめ設定された時間割にしたがって授業を受ける ・アカデミック科目と職業技術系科目の両方が提供されている ・学校外での学修機会（就業体験、アプレンティスシップなど）がある	・在籍者のほとんどは、高校卒業証書ではなく、それよりも修得単位数が少ない修了証(Certificate of Achievement)を取得し、高校の過程を修了する。 ・LD やその他の発達障害・精神障害などの課題を抱える生徒の割合が高い ・前述の障害などが見つかри、通学区域内の高校から本校を紹介されて転学した生徒が多い
オルタナティブ高校 Alternative High School	・あらかじめ設定された時間割にしたがって授業を受ける ・少人数で教員と生徒の距離が近い雰囲気（全校生徒 120 名、教員数 11 名） ・Democratic General Meeting（生徒による自治活動）への参加が義務となっている	・抑うつ症状、薬物中毒、ADHD、LD、などの課題を抱えたり、他校でLGBTによる差別的な扱いを受けた経験のある生徒の割合が高い ・教員全員が特別支援のスキルを持ちながら、集団の中で個々の生徒に対処している。
ディスカバリング・チョイス Discovering Choice	・あらかじめ設定された時間割はない。生徒の都合に合わせて登校時間や下校時間を決めることができる。 ・基本的に自学自習のスタイルであるが、教員との1対1の指導を受けることも可能である	・経済的な理由で、働きながら通学する必要のある生徒が多い ・抑うつ症状、薬物中毒、ADHD、LD、などの課題を抱える子の割合が多い ・出産し子育て中の生徒には、子育て支援や託児施設も用意されている ・Social Worker が常駐していてホームレスや貧困などの課題に対処している。
CYAC Calgary Youth Attendance Centre	・あらかじめ設定された時間割はない。生徒の都合に合わせて登校時間や下校時間を決めることができる。 ・基本的に自学自習のスタイルであるが、教員との1対1の指導を受けることも可能である	・少年院を出院した若者を受け入れるための高校（少年院を出院した生徒は他の高校を選択することも可能である） ・1日に2食（朝・昼）の食事が提供される ・カルガリー市教育委員会の教員が配置されているが、それ以外に、州法務省の職員も配置されており、矯正プログラムも提供されている。
チヌーク学習センター Chinook Learning Center	・あらかじめ時間割が設定されている授業とそうでない授業がある。 ・高校での単位取得を目的とする授業と、第二言語として英語習得(ESL)など、社会で自立するのに必要なスキルを身につけるための授業がある ・夜間や夏季休業中に授業が開講されている	・高校の就学年齢(18 歳まで)を超えている生徒が多い。 ・ESL のクラスがあるため、移民の生徒が多い（60-70%） ・著しい社会的な課題（貧困・言語など）を抱える生徒の割合が高い
ルイーーズデーン高校 Louise Dean High School	・あらかじめ設定された時間割にしたがって授業を受ける ・アカデミック科目と職業技術系科目の両方が提供されている ・学校外での学修機会（就業体験、アプレンティスシップなど）がある ・Parenting Education（職業技術系科目）が充実している。	・妊娠中または出産後の女子学生のための高校 ・運営は Calgary Catholic Family Foundation が行い、教員の派遣などをカルガリー市教育委員会が行なっている。また、保健師やカウンセラー、ソーシャルワーカーなどは、アルバータ州保健省から派遣されている。市、宗教系NPO および州政府の共同による運営がなされている。

80%程度が、高校卒業資格 (High School Diploma) ではなく修了資格 (Certificate of

Achievement)を取得して卒業する。その後再び卒業資格を取得するために、そのまま継続して在籍する生徒も多い。ルイーズ・ディーン高校は、現在妊娠しているかあるいは出産直後の女子生徒を受け入れる高校である。本校は、カルガリー・カソリック・ファミリー基金が設置し、カルガリー市教育委員会およびアルバータ州保健省との連携によって運営されている。現在、約 100 名の生徒が在籍しているが、一般の高校と同じカリキュラムに加えて、特にペアレンディング（子育て）に関わる専門科目（高校の正規の科目）が強化されている。また、子育てをしながら就職することを前提とした職業技術系の科目にも力を入れている。さらに、カルガリー市教育委員会から派遣される教員に加えて、アルバータ州保健省から派遣される看護師やカウンセラー、ソーシャル・ワーカーなどが常駐し、福祉的な支援の制度に生徒が学校内でアクセスすることができるような体制をとっている。さらに、生徒が就学している間に子どもを預かるための保育施設が併設され、子どもの年齢に応じて 3 つのクラスが用意されている。現在、教員が 20 名、それ以外のスタッフが 40 名ほど常駐している。

表 4 職業技術系科目 CTS の内容

2010 年以降の CTS クラスターと職業分類、コース数			
BIT クラスター :ビジネス(Business)、行政(Administration)、金融(Finance)、情報(IT)			
職業分類	コース数	職業分類	コース数
コンピュータ科学(Computer Science)	32	金融マネジメント* (Financial Management)	25
情報処理(Information Processing)*	22	企業と経営革新* (Enterprise and Innovation)	15
経営とマーケティング* (Management and Marketing)	35	ネットワーク(Networking)	28
HRH クラスター :保健医療 (Health)、レクリエーション(Recreation)、サービス(Human Services)			
職業分類	コース数	職業分類	コース数
地域ケア(Community Care Services)	24	コスメトロジー(Cosmetology)	16 (37)
エステティック (Esthetics)	33	食物 (Foods)*	45 (20)
保健医療ケア(Health Care Services)	28	サービス (Human and Social Services)	27
法律 (Legal Studies)*	22	リクリエーション (Recreation Leadership)	31
観光 (Tourism)*	29		
MDC クラスター :メディア (Media)、デザイン (Design)、コミュニケーション(Communication Arts)			
職業分類	コース数	職業分類	コース数
コミュニケーション技術* (Communication Technology)	58	設計 (Design Studies)*	23
服飾 (Fashion Studies)*	52		
NAT クラスター :天然資源 (Natural Resources)			
職業分類	コース数	職業分類	コース数
農業 (Agriculture)*	42	環境保全 (Environmental Stewardship)	29
林業 (Forestry)*	21	天然資源 (Primary Resources)	21
野生生物 (Wildlife)*	32		
TMT クラスター :トレード (Trade)、製造 (Manufacturing)、運輸 (Transportation)			
職業分類	コース数	職業分類	コース数
建築 (Construction)*	54(12)	電子技術 (Electro-Technologies)*	42
板金 (Fabrication)*	51(13)	流通 (Logistics)*	19
自動車機械 (Mechanics)*	62(15)		

()内の数字は、卒業後に Apprenticeship に移行するために必要なコース数

*は、2009 年以前の CTS ストランドと同じ名称

(Alberta Education(2010), Pathways to Possibilities)

以上は、多様な形態の高校を選択可能であることを示す事例である。次に紹介するのは、実際に在籍し卒業資格を授与する高校以外に、一部の履修科目についてのみ別の施設で学習するというものである。その一つは、CT センターである。CT は、職業技術系科目 (Career and Technology Studies: CTS) のことを指す。現在、CTS は 1000 以上のコースを有し、幅の広い学習内容を網羅している。上の表 4 は、その概要を示すものである。CT センターは、廃校となっ

た校舎を活用し、CTS のほぼすべての分野の学習内容を提供する施設である。通常の学校において、CTS のすべての分野をカバーするには、施設設備や費用の限度がありいくつかの分野を選択して開講している場合がほとんどである。一箇所に集約することで、最新の設備で多様な科目を履修することが可能となる。また、すでに述べたように、CBE 内のすべての高校は始業時間と就業時間および昼休みなども統一されており、複数の高校に在籍する生徒が、1 日のうちの決められた時間に学外で同じ時間に授業を受けることが容易になっている。もう一つは、CBe-Learning である。これは、インターネット回線を通じた通信教育プログラムである。高校卒業に必要な必修科目を習得するために、一部の科目のみ通信教育で習得することが可能となっている。これは、通学区域内の学校の図書館やラーニングコモンズなどでも受講が可能となっており、在籍校の授業を受ける以外の単位習得のための選択肢が用意されている。

さらに多様な学びの場として、少年犯罪の加害者となった経験を持つ若者のための施設を取り上げる。そのうちの 하나가、ヤング・オフエンダース・センター(Calgary Young Offenders Centre: CYOC)である。これは、日本で言うところの少年院に当たる施設であり、法を犯した少年が裁判を受け、少年院送致の判決を受けたのちに収容される施設である。日本の少年院との違いは、矯正施設ではなく、教育施設であるという点である。CYOC の中では、大きく二つのプログラムがあり、一つは司法省が提供する SHOP(Serious Habitual Offender Program)と呼ばれるもので、万引き、ギャング、薬物中毒などを防止する目的で、自己肯定感を高めたり感情をコントロールする訓練を受けるものである。もう一つは、CBE が提供する学校教育プログラムである。CYOC の中には司法省の職員と、教育委員会在籍の教員が勤務し、施設内で提供される授業を受けることで、高校の卒業所要単位を満たすことが可能となる。日本の少年院では、義務教育段階では、出身校の校長の配慮により単位が習得されたとみなされるが、高等学校の単位を少年院において習得することは原則的にできない仕組みになっている。

CYOC を出院した後の教育機関については、基本的に自分で選択することが可能である。しかし、通学区域内の高校に戻ることはなく、ほとんどの若者が、ディスカバリング・チョイスを選択するか、次に紹介するユースアテンダンスセンター(Calgary Youth Attendance Centre: CYAC)である。CYAC は、保護観察期間にある生徒が自ら希望して通うことのできる施設である。極めて少人数の施設で司法省の職員と教育委員会所属の教員が勤務し、通常の高校の授業を提供している。授業のスタイルは、時間割がなく基本は生徒の自主的な学習を中心とするものであるが、教員が 1 対 1 で支援している。授業のほかに、食事を提供したり、生活の相談にのったり、ホームレスの対応も行っている。家に居場所がなく、この施設が居場所になっている生徒も多い。

2. カルガリー市教育委員会により運営されるカリキュラム

次に、取り上げるのは CBE の開発した Unique Pathway Program である。ここのプログラムは、学修の場を学校外に設定し、職能組合、中等後教育機関、企業などでの実習を卒業所要単位とする取り組みである。また、このプログラムは、各学校単位で運営されるものではなく、カルガリー市教育委員会内に 4 名の専門の担当者を配置して管轄下の全ての学校の在籍生徒を対象に運用されている。したがって、CBE の担当者は、各学校のオフキャンパス教育担当者、

キャリア支援専門員、教頭などからの要請を受けたり、場合によっては生徒からの直接の電話やメールによる連絡を受け、学校と企業の間の連携・調整を図っている。

以下にその内容について、特徴的な二つのプログラムを取り上げて説明する。一つ目は、オフキャンパス探求プログラム(Off-Campus Exploratory Programs)である。これは、職能組合などが運営する訓練施設での職業体験および初歩的な職能訓練を行うものである。たとえば、自動車整備や、配管工、鉄工業、木工業などの熟練を要する職業に関する訓練施設でのプログラムである。二つ目は、デュアル・クレジット(Dual Credit)である。これは、中等後教育施設で学んだ単位が、高校での卒業単位となると同時に、中等後教育に入学したのちに既習得単位として認定されるという仕組みである。カルガリー市内の職業技術専門学校(Southern Alberta Institute of Technology: SAIT)のいくつかのプログラムがこれに当たる。生徒は、高校に在学しながら、中等後教育レベルの学修の機会を得ることで、学習の動機付けとなっている。

これら二つのプログラムは、学習内容が自分の将来の進路選択においてどのような有用性を持っているのかを認識することができるものである。また、これらの科目で学んだことを将来に生かすために、高校卒業の必要性を理解し、外発的な動機付けにつながるという効果もある。さらに、先に説明したオフキャンパス探求プログラムでは、親や学校の教員以外の大人とのコミュニケーションを通じて、自分の存在意義を確認することができるという可能性をもっている。さらに、探求プログラムを終了したのち、職能組合の関連企業で就労機会を得ることで、実質的な経済支援を得ることにつながる事例も少なくない。

ここまで見てきたように、生徒の個々のニーズに合わせて、教育を受ける形態を選択することが可能となっている点が明らかとなった。また、単に選択肢を増やすだけではなく、学校教育の内容に実質的な意味を持たせ、若者が高校にとどまる気にさせるような取り組みが進められている。

3. 高校におけるサポートスタッフの配置

若者が抱える就学上の課題には、学校外において生活の基盤となる家族が不安定であり、場合によっては住む場所や食事の確保も難しいという実態がある。学校から、生徒が興味関心を持つような教育内容を提供されていても、日々の生活を維持することに終始し、高校教育を受ける精神的なゆとりがないといった課題を持つ生徒は、どの高校にも存在している。このような課題は、教育行政の範囲を超えており、人的サービス省(Alberta Human Service)や保健省(Alberta Health)などの業務にかかわるものである。しかし、先述のとおり、高校は困難を抱える若者に支援を提供するには、もっとも効率的な場所である。以下では、高校内で家族、生活、食事、住居などの就学に影響を及ぼすような課題について支援を行うためのサポートスタッフの役割とその背景について述べる。以下の表5は、カルガリー市内のロードビーバーブルック高校におけるサポートスタッフのリストである。

ガイダンス・カウンセラーは、履修上の課題について個別面談に応じる。生徒数に応じて、複数の職員が配置されている。キャリア支援専門員は、ガイダンス・カウンセラーの職務内容と重なっている部分があるが、特に高校卒業後の進路に関わる相談を行う。オフキャンパス教育担当者は、通常は教員が担当するが、学校外での学習の機会を生徒に周知し、生徒の希望と

表5 Lord Beaverbrook High School におけるサポートスタッフのリスト

名 称	派遣組織	職務の内容
ガイダンスカウンセラー (Guidance Counselor)	CBE Supporting Staff	主に、履修上の課題について必要に応じて個別相談
キャリア支援専門員 (Career Practitioner)	CBE Supporting Staff	高校卒業後の進路全般（進学・就職）に関するカウンセリング
オフキャンパス教育担当者 (Off Campus Coordinator)	CBE Teacher	Work Experience, RAP, Dual Credit などの学校外のプログラムの説明、連絡、調整
サクセスコーチ (Youth Success Coach)	Boys & Girls Club (funding from United Way) “All in Youth Program”	卒業に困難となる貧困や家族の問題について対処する（Social Worker のような役割）
FNMI 卒業コーチ (FNMI Graduation Coach)	CBE Aboriginal Area Office 連邦政府	サクセスコーチの役割を先住民族出身の生徒に限定して行う
就学支援専門員 Instructional Support Worker	CBE Teacher	不登校などのリスクのある生徒に個別対応する。 Lunch Time Program など
生徒支援員 Students Resource Officer (SRO)	Calgary Police Service Police Officer	学校内の治安を維持することが第一の目的

受け入れ先のマッチングを行い、実習先を巡回することで教育の質を維持し生徒の取り組みの様子をチェックする役割を担っている。サクセスコーチはソーシャル・ワーカーの役割を果たしている。就学の支障となる貧困、家族問題、ホームレスの問題など福祉的な分野を中心とし、生徒にどのような支援をどこで受けられるのかを知らせ、学校外の組織と連携を図っている。FNMI コーチは、特に先住民族の生徒の高校修了率が低いという課題に対処するために配置された。役割としては、サクセスコーチと同様に、ソーシャル・ワーカーの役割を果たしているが、特に、先住民の固有の文化や習慣に起因する問題について対処している。就学支援専門員は、精神的な疾患を抱えていたり、薬物中毒や強いトラウマを抱えており、他の生徒とコミュニケーションをとることが難しかったり、一人で過ごすことで自傷行為を発症する可能性がある生徒に対しての校内での居場所を提供したり、寄り添いながら就学を支援する役割を果たしている。最後の生徒支援員は、カルガリー市警察の警官が不定期に校内を巡回したり、犯罪などに関する生徒の相談に応じたりする。

サポートスタッフの配置によって重要なのは、学校教育の範疇にとどまらず、福祉サービスに関わる支援を学校内で提供している点である。ほとんどのスタッフはカルガリー市教育委員会の職員であるが、サクセスコーチは、カルガリー市内で若者のホームレスなどのケアを行っている NPO 団体から派遣されており、アウトリーチ活動に位置づいている。また、貧困・家族問題・薬物中毒などの医療的な問題など、就学の支障となるあらゆる問題について、学校が窓口となって外部の機関と連携を図るという方針が貫かれており、ワンストップ型のサービスを提供している。

IV 学校・教育委員会以外の若者支援の取り組み

高校中退者および中退リスクを抱える若者の背景にはさまざまな課題があり、それらは、福祉的な支援を要するものである。すでに述べたように、カルガリー市の高校現場には、教員以外の専門スタッフが常駐しており、学校内で貧困対策や医療的な支援、また家族に課題がある場合の支援などがワンストップで提供されている。しかし、これらは学校内における支援に限定されており、生徒が下校した後および投稿しない時にはアクセスできない。そのため、学校内の専門スタッフが学校外の専門的な組織と連携を図っている。これらの多くは、寄付金などで資金を賄う NPO などによって運営されている。以下ではそのうちのいくつかを紹介する。

1. Big Brothers and Big Sisters (BBBS)

BBBS は、アメリカに 103 年前に設立されたボランティア組織である。アルバータ州では、1967 年にエドモントンで設立された Uncles and Aunt at Large が起源となり、カルガリーでは 1970 年代から、主に 6-18 歳の若者をサポートするメンタリングプログラムを提供している。1994 年にボランティア組織 BBBS として、カルガリー市内での活動をはじめた。現在カルガリー市内に 2000-2200 人のメンティー(mentee)を 263 人のメンターで対応している（メンターの 65%は女性）。主な活動は、学校内でのメンタリング活動（Boys & Girls Clubs が派遣する Success Coach との連携）と学校外でのメンタリング活動（1 対 1 メンタリング+グループメンタリング、継続的なメンタリング+イベント（スポーツなど）毎のメンタリング）である。

BBBS が支援の対象とする若者および子ども達は、家庭崩壊などの課題を抱えていたり、薬物中毒などの犯罪傾向のある場合が多い。したがって、若年者のホームレスなどの問題を扱う団体(Calgary Homeless Foundation や Boys & Girls Club など)や薬物中毒の問題を扱う団体 (Alberta Adolescent Recovery Centre,や Alex など) と連携を図っている。

2. Boys & Girls Club

Boys&Girls Club は、1860 年代にアメリカで設立されたホームレス(Street Children)を支援する組織である。カルガリーでは 1937 年に設立（United Way や州内の企業からの寄付で運営されている）された。主なプログラムは、①コミュニティー・クラブと体験学習 ②教育と就労 ③地域包括支援 ④若年者の住宅とシェルター ⑤先住民の若者支援 の5つである。今回は、そのうちの④について調査することができた。このプログラムは、アルバータ州内で深刻となっている若年者のホームレス問題への対応の一つとして取り組まれている。具体的な取り組みを以下に示す。

表 6 Boys & Girls Club による若年者の住宅とシェルターの取り組み

予防的なプログラム (Referral & Assessment)	ホームレスの原因となる家庭環境における課題や親との関係について、該当する子どもからの要請を受けてカウンセラーなどを紹介する事業
緊急的な若者向けシェルター事業 (Emergency Youth Shelter)	・12 歳から 17 歳までの子どもを対象とし、ホームレスや家出をした子どもたちを一時的に保護する施設でスタッフが家族と

	の関係を修復する手助けを行(Avenue 15 Youth Shelter) ・ 15 歳から 18 歳までの子どもたちを対象とし、継続的なホームレス状態にある子どもたちを保護する施設(Safe House)
アウトリーチおよび予防サービス	12 歳から 24 歳までを対象に、Alberta Works や教育委員会と連携をとりながら、就学や就労の支援を行う(SCRIPT) 15 歳から 24 歳までを対象に、主に家族との関係を改善するためにメンタリング、コーチングなどの支援を提供する(The Fusion Project) 12 歳から 24 歳までを対象に、ホームレスになる可能性のある若者・子どもたちと家族との関係を改善するための支援(Elements)
若者に住居を提供するサービス (Youth Housing Services)	・ 州政府の就学または就労していて、Children's Services を受けている 16 歳から 24 歳までの若者に永久的に居住できる住居（アパート）と家具を提供し、自立を支援する(Youth Transitions to Adulthood (YTA)) ・ 現在ホームレスの状態にある子どもたちや若者に永久的に居住できるアパートなどを提供し、ホームレスを繰り返すことを防止することを目的としている(The Infinity Project) ・ 14 歳から 24 歳までのホームレスになるリスクを持つ女子に、住居を提供するためのプログラム(Haven's Way) ・ LGBT の若者に、ホームステイの場を提供したり、永久的に居住できる空間を一緒に探すための取り組み(Aura)

3. オンコー(Encore)

高校中退者に高校教育を受ける機会を提供させるための組織として、カルガリー市教育委員会とカルガリー・カトリック教育委員会に設置されている。具体的には、次のような手順で若者への支援がなされている。①学校から退学の連絡を受け、Encore が退学した若者に電話をし、退学の理由を聞き出す(call back)、②高校に戻るのに障害となる問題を明らかにする ③警察、ケースワーカー、シェルターワーカー、心理学者、NPO 組織との連携→可能な限り課題解決の手伝いをする ④若者に適した教育施設を紹介する(例えば、一般の高校、オルタナティブ高校、ディスカバリング・チョイス、 シヌーク・ラーニングセンター、カレッジなど)。対象者には、退学率が高い先住民、英語を母国語としない移民、難民、LGBT、などの背景を持つ若者が多い。

4. カルガリー市警察による取り組み

カルガリー市警察基金(Calgary Police Foundation)からの出資により、若者および子ども達を対象にした MASST (Multi Agency School Support Team)および YARD (Youth at Risk Development Program)の二つのプログラムが提供されている。前者は、5 歳から 12 歳（1～6 学年）を対象とし、後者は 12 歳から 17 歳（7～12 学年）を対象としている。具体的には、警察官（Calgary Police Station）＋ソーシャルワーカー（カルガリー市）が一組となり、主に犯罪を犯し保護観察下にあり、保護司(probation officer)からの情報提供で再犯の可能性があるとされた少年を対象とする。教育、雇用、余暇の 3 つの分野での支援を行なっている。

V まとめ

カナダ・アルバータ州カルガリー市における高校中退問題への対応について、カルガリー市教育委員会の取り組みに焦点を当てて、幾つかの事例を取り上げ紹介してきた。ここでそれぞれの取り組みを以下の3つの点にまとめてみたい。

一つ目は、高校教育の多様化とそれにとまなう学習内容の個別化である。生徒は、あらかじめ通学することが決められている通学区域内の高校の他に、自分の学習スタイルに合わせて通学する高校を選択することができる。これらの高校の中には、時間割をなくし生徒の主体的な学習を中心としている学校や、就学年齢を超えた若者を受け入れている学校も存在する。また、学習障害などの課題を抱える若者を受け入れるための高校や妊娠・出産などの課題を抱える若者を受け入れる学校も設置されている。こうした課題を抱える生徒は、通学区域内の高校に通学することも可能であるが、オルタナティブな高校を選択する機会も与えられている。こうしたシステムについて、通学区域内の高校に通う若者とそうではない若者に区分していると捉えることもできるかもしれない。しかし、厳格な時間割にそって一斉形式の授業を受けることを強いられる一般の高校にうまく適応できない生徒にとって、違う選択肢が用意されていることは、高校修了のための機会が保証されていると考えることができる。

二つ目は、職業教育プログラムの拡充である。カルガリー市教育委員会は、すべての高校の始業時間と終業時間を揃え、午前中は校内での授業に出席し、午後は校外の職能施設や中等後教育施設で学習することを可能にした。こうした改革により、生徒は学校内で学ぶ理論的・抽象的な内容と、職能訓練施設で実際に体を動かして学ぶ実践的な学習の関連を意識する機会を得ることができる。また、こうした機会により、高校を卒業することの意味を理解し、高校での学習の動機付けとなっている。さらに、それぞれのプログラムは、教員や親以外の大人との接触の機会を提供しており、直接的に就労につながり経済的な支援につながる事例もみられる。

三つ目は、学校と学校外の組織および企業との連携である。それぞれの学校には、教員以外の専門的なスキルをもったサポートスタッフが配置され、生徒が抱える就学上の課題に対応している。これらは、福祉的なサービスや医療サービスを提供する役割を有しており、生徒に関わるあらゆる課題に対するワンストップサービスが提供されている。特に、高校中退後の貧困を原因とするホームレスなどの問題を防ぐという点から、生徒が学校に投稿している時にどのような支援を提供することができるかが鍵となっている。しかし、学校内での対応では限界があるため、学校外のNPOによるアウトリーチ的な活動が学校と連携を図り若者の支援を提供していることが明らかとなった。

これまで紹介したカルガリー市の実践もかならずしも成果を上げているばかりではなく、不安定な原油価格と増え続ける国外からの移民によって、格差と貧困の問題は継続的に対処することが求められている。しかし、若者の抱える課題に対して多様な教育機会をもって対処することを可能にする仕組みと、民間企業からの財政的・人的な支援の提供を可能にする社会の中で、社会的包摂を目指そうとしている動きを見ることができた。